

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170401012		
法人名	アトム商事 株式会社		
事業所名	グループホーム あすか		
所在地	札幌市西区西町北12丁目4番3号		
自己評価作成日	平成26年11月9日	評価結果市町村受理日	平成27年1月9日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kihon=true&jigyosyoCd=0170401012-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット
所在地	札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401号室
訪問調査日	平成26年12月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホームは交通の便がよく、家族や知人等が来訪しやすい立地になっている。さらに、理美容室やお店も近くにある為利用者との外出の機会も多い。ホーム内では理念で掲げている、優しさと思いやりのあるケアがなされており、利用者はゆったりとした生活を送っている。毎日共用部と自室は塩素消毒が行われており、衛生面でも注意を払っている。年に1度事業所主催の夏祭りにはたくさんの地域の方々や関係者が参加しており、催し物や出店など盛大に行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、札幌市営地下鉄東西線発寒南駅から徒歩5分にある西区の住宅地に位置し、2階建ての1階が1ユニットのグループホームで、2階には同法人の通所介護事業所がある。近隣にはコンビニやドラッグストアなどがあり、利便性の良い地域である。事業所の前にはベンチがあり、夏場は日向ぼっこなど外気浴に利用している。建物隣に法人の事業所と経営者宅があり、緊急時の支援体制となっている。事業所内には、外出行事の際の利用者のスナップ写真が多く掲示され、利用者の楽しそうなひと時が想像される。職員は、事業所の理念である「やさしさと思いやりのケア」を一人ひとりの利用者に寄り添い、ケアの実践に努めている。事業所主催で、年1度、盛大な夏祭りを開催し、地域の方が多数参加しており、地域における介護事業所としての期待が大きい事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができて いる (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホールの目立つ所に提示したり、月1回のミーティングで唱和する等職員間で共有し、実践につなげている。	事業所の理念は、運営推進会議委員と職員で、5年前に新たに作成したもので、事業所内に掲示し、月1回のミーティングで唱和して確認し、実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	代表者は町内会の役員をしていたこともあり、地域での理解者は多く、年1回の事業所主催のお祭りではたくさんの地域の方々の参加があり、日常的に交流するきっかけとなっている。	町内会の行事に参加したり、事業所主催の夏祭りに、地域の方50～60名程の参加があり、クリスマスには、保育園の園児が来所するなど、日常的に相互の交流をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で認知症を議題に取り上げ、地域の人達を交えて勉強会を行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回行い、認知症や防災、外部評価報告等の議題で話しあわれ、そこでの意見をサービスの向上に活かしている。	運営推進会議は、包括支援センター職員や町内会の方、家族などが参加して定期的に開催し、意見や要望を聞く機会となり、サービスの向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者とはその都度不明な点や必要に応じて電話などで連絡を取っている。	市担当者や生活保護担当者と定期連絡するなどしている。また、ケア管理者連絡会に2ヶ月に1回参加して、情報交換や交流をし、協力関係築くよう取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアを実践し内、外部研修を通じて理解を深めている。玄関の施錠は入居者の安全確保上やむをえず行っている。	身体拘束をしないケアの指針やマニュアルを整備して、事業所内研修で確認しながら、身体拘束のないケアに取り組んでいる。また、玄関の施錠は家族の同意のもと、安全確保の為、行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員は内外研修を通じて理解を深めている。着替えや入浴時には身体の状態をチェックし、日頃の利用者の精神状態を観察するなど防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を実際に利用している利用者がおり、関係者と密に連絡を取り合い支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には十分な説明を行い不安や疑問の解消を図り、改定等の際は文章により、同意を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来訪時やケアプランの説明の際に聞き、利用者からは日々の関わりから聞いたり、感じ取っている。それらを職員会議で話し合い運営に反映させている。	毎月あすか便りを発行し、家族に利用者の生活状況やホームの運営状況を報告している。玄関に意見箱を設置し、家族の面会時には意見や要望を聞き取りするなどして運営に反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の職員会議では職員間で活発に意見交換がされており、日々の業務の中でも申し送りや連絡ノートなどを活用し、意見などを聞き出している。	日頃から、連絡ノートや申し送りで意見などを聞いているが、月1回の職員会議や必要な都度行う個人面談などで、職員の意見や要望を聞き、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者はほぼ毎日ホームに来ており、管理者や職員と連絡を取り合っている。職員の要望に迅速に対応するなど環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の告知や参加の促しを行っている。内部研修は定期的に行われており、服薬に関してや救命救急などの研修が行われている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者会の行事などで交流する機会がある。事業所主催のお祭りでは他グループホームの利用者や職員を招いて行っており、交流する機会としている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の時点で管理者などは本人との面談する機会を設けて本人の状態の確認と現在困っていることなどを聞き出し、入居の段階でより良いケアに結びつけるよう支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス利用前に面談する機会を設けて、不安や要望を聞き出している。入居初期には来訪回数を極力増やして頂くようお願いし、本人を支える一員として情報交換を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前情報や家族からの要望をもとにその時必要としている支援を提供している。ケアプランで方針を統一している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の能力に応じて家事に参加していただいたり、個別の嗜好を踏まえておかずを人によって変更するなど、個々の意思を尊重している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ケアプラン作成時には家族の意向を反映させて、その都度、面会や電話などで連絡を取り合っている。一緒に本人を支援する一員として関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会や電話の制限はなく、いつでも面会可能となっている。来訪時には自室でゆっくりと過ごして頂けるよう配慮し、実際には友人や知人、遠方に住む姉妹などが来訪されている。	家族や友人・知人の面会が多く、ゆっくりと過ごせるよう配慮している。また、天気が良ければ、近隣の商店街に職員が同行して買い物などの支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	全体を通したレクリエーションや行事で交流する機会を設けている。意志疎通が困難な利用者には職員が間に入る等の配慮がなされている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去先が医療機関であればお見舞いに行ったり、亡くなられた方の葬儀に参列させて頂いている。相談を持ちかけられた際にはその都度支援し、必要に応じてカンファレンス等に参加している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活歴などの事前情報や家族の言葉と本人の言動を照らし合わせて希望や意向の把握に努めている。職員会議で情報交換がなされている。	家族からの生活歴などの情報や、本人の言動などから、思いや意向を把握するよう努めており、月1回の職員会議や申し送り、職員間の共有をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居の段階で家族やケアマネージャー等の関係者から事前情報を収集し、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員は勤務前に個々のケース記録や連絡ノートを読む事で把握している。申し送りや職員会議で情報を共有している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の意向をもとに計画作成担当者を中心に職員全員でモニタリングと次のケアプランの作成を行っている。	本人や家族の意見や要望を聞き取り、主治医などの助言を取り入れ、職員全員でモニタリングを行い検討し、介護計画を作成している。また、見直しは3カ月毎に行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	本人の言葉や状態を個別記録に記入し、変更された点や工夫を連絡ノートに記入されている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々本人の状態の変化や家族のニーズに合わせて柔軟な支援を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防署の協力のもと年2回の避難訓練を行ったり、近所の美容室で散髪するなど地域資源との協働に努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療機関は本人や家族が自由に選択されており、受診時には必要に応じて日頃の様子やバイタルなどを報告している。特変時にはその都度電話で連絡し、指示を仰いでいる。	かかりつけ医は以前から継続しており、家族が同行して受診している。また、協力医療機関による往診が月2回あり、看護師の24時間対応で、適切な医療が受けられるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員は週1回勤務しており、利用者の体調管理や往診の付添を行っている。介護職員は情報や気づきを看護職員に24時間オンコール体制で相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には代表者や管理者がお見舞いに行き医療機関や家族と情報交換を行っている。必要に応じてカンファレンスに出席するなど早期の退院に向けて協働している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所独自の看取りの指針を作成し、入居の際に読み合わせの上1部を家族に渡している。必要に応じて医療機関、家族を含めて話し合いを行っている。	重度化や終末期に向けた事業所の方針は、契約時に本人や家族に説明し、同意を得ている。重度化した場合は、主治医の指示の下、本人や家族と話し合いながら対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを設置している。救急救命の訓練を消防署協力のもと事業所内で行い、知識を深めている。事業所内にはAEDを設置しており、近隣の方への貸し出しも可能な状態である。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	スプリンクラーや火災通報機を設置している。地域の住民には運営推進会議の際に協力を呼び掛けている。	避難訓練は、消防署の指導の下、マニュアルを整備して、運営推進会議委員や地域の方の協力により、定期的に開催している。AEDを設置し、職員は救急救命の講習を受講するなど、緊急時の対策を行っている。	災害対策に積極的に取り組んでいるが、災害緊急時における近隣施設との相互の避難協力体制の構築に期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々にあった声掛けに配慮し、わかりやすい言葉で伝えるよう努めている。	コーチングの研修会に参加したり、介護技術コミュニケーションの内部研修を行い、人格の尊重とプライバシーの確保に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の自己決定を尊重し、個々の生活リズムに合わせている。意思の表出が困難な利用者には表情や態度で汲み取る様努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかなスケジュールはあるが、こちらから強制することではなく、利用者の希望を尊重している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	基本的には利用者に委ねている。困難な利用者には行事や外出の際に普段とは違った服を着て頂くなどの配慮がなされている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の盛り付けや食後の食器拭きを利用者が積極的に行っている。献立のメニューを書くなど利用者の役割の1部となっている。	月1回のメニュー会議で、利用者の好みのメニューを検討している。利用者は、食事の盛付や食器拭きなど手伝っており、全員食卓椅子で食事をしている。回転寿司などの楽しみな外食も、年2・3回行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分はそれぞれチェック表にて全入居者の摂取量を把握し、少ない利用者にはその人の嗜好や時間などを考慮し、対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に個々にあった方法で口腔ケアを行っている。極力できる範囲内で本人に行っていただき、不十分な所は職員が行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を用いて全ての利用者の排泄パターンを把握し、個々にあったトイレ誘導を行っている。	排泄チェック表で、個々の排泄パターンを把握して、一人ひとりにあった声掛けや誘導をして、トイレでの排泄に向けた自立の支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	起床時に牛乳を提供したり、散歩や体操などの全体的な予防に取り組んでいる。個々に対しては下剤等の調節などで排泄を促している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的には毎日入浴支援を行っている。以前入浴拒否がある利用者に午前中に支援したこともあったが、今は拒否や時間帯の希望等はない為、午後の決まった時間に支援している。	入浴は週2回以上行っており、希望があれば自由に入浴する事も可能である。入浴できない場合は、シャワーや足浴など個々に沿った支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間や起床時間は各利用者のペースに合わせたものになっている。日中居間のソファでうたた寝したり自室のベッドで休まれるなど、自由な物になっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者個々のファイルに服薬している薬の内容が記載されており、いつでも閲覧可能となっている。各利用者の薬の一覧表があり、内部研修を通して周知している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者個々の能力や嗜好を踏まえ、買い物同行や洗濯物干し、献立の記入などを行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候の良い日には散歩やホーム前にて外気浴を楽しんでいる。外出レクでは回転寿司や白い恋人パーク、大型ショッピングセンターなどにお連れしている。	ホーム前にベンチがあり、日向ぼっこなど外気浴をしており、近隣の散歩など日常的に外出の支援を行っている。回転寿司やショッピングセンターなどへの外出行事も2ヶ月毎に組んでおり、楽しい外出支援をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ほとんどの利用者は金銭管理が難しい状態にあり、ホームにて金銭管理を行っている。極一部の利用者に関してはホームとは別に金銭管理を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時には事務所の電話を貸し出している。ハガキを購入したり、ポストに投函するなどの支援を行っている。家族や友人から電話があった際には自室にてゆっくりと会話を楽しんで頂いている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁には季節感のある絵や行事等で撮った写真を貼り出している。居間には大きな窓があり、外が見渡せ開放的になっている。陽射しが強い時などには日除けで調節可能となっている。	共用空間は、風通しや採光もよく、季節の飾り物や、利用者の作品が掲示してある。外出行事での利用者のスナップ写真が沢山掲示され、楽しそうな利用者のひと時が想像されるなど、生活感を感じ、居心地良く過ごせるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間では各自思い思いの席に座られ、テレビを見たり、会話を楽しんでいる。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の段階で使い慣れたものを配置して頂けるよう促している。	居室のネームプレートは、管理者の工夫で災害避難時に避難済みを確認できるよう配慮され、室内には温度・湿度計があり、利用者は使い慣れた物を持参して、居心地良く過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内は全面バリアフリーになっており、各居室にはネームプレートを設置している。トイレの入り口には夜間でもわかりやすいように電球を設置している。		